

令和7年度における業務実績に関する評価表(全体評価)

資料5

大項目名		評価の記号	評点 (α)	評価比率 (β)	$\alpha \times \beta$	評価の記号	全体評価に関するコメント
		(大項目評価) ※1	※2	※3		(全体評価)	
第 2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	—					別紙のとおり
	1 教育			15%			
	2 学生の確保と支援			10%			
	3 研究			10%			
	4 地域・社会貢献			15%			
	5 平和			10%			
	6 国際化			10%			
第 3	業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置	—					
	業務運営の改善及び効率化			10%			
第 4	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	—					
	財務内容の改善			15%			
第 5	自己点検、評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	—					
	自己点検、評価及び情報の提供			2. 5%			
第 6	その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	—					
	その他業務運営			2. 5%			
計				※4	#####		

(注)※1 「評価の記号(大項目評価)」は、各大項目の評価結果を「SABCD」の5段階で記入してください。

※2 「評点」は「評価の記号(大項目評価)」と連動します。S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点

※3 評価比率は、令和4年度の評価委員会で決定したものです。

※4 「評価の記号(全体評価)」は、次のとおり、この数値($\alpha \times \beta$ の計)と連動します。

$\alpha \times \beta$ の合計=Xとすると、S・・・4.5<X A・・・3.5<X≤4.5 B・・・2.5<X≤3.5 C・・・1.5<X≤2.5 D・・・X≤1.5 となります。

全体評価に関するコメント

○教育の質の向上は充分に目標が達成されていると思う。業務運営や財務内容についても、問題があるわけではなく、着実に目標達成に向けた措置がとられたと思う。

○教育については堅実に行われている。全学共通系科目は学科横断型で広島市立大学の特徴でもあるので、改善を継続してほしい。学部学生の確保は順調であるが、大学院学生数の確保は難しい問題ではあるが、方策が求められる。学生への支援は堅実に行われている。研究は改善策が奏功してきているが、大型研究費の一層の確保などに尽力してほしい。地域の振興もよく努力していると思うが、社会人教育など一層の貢献を期待したい。

○全体を通して、計画に沿った着実な取組に加え、教育の質を高めようとする姿勢が随所に感じられた。特に、教育DXやカリキュラム改革、地域・企業との連携などは、単なる制度改善にとどまらず、学生が社会とつながりながら主体的に学ぶ環境づくりにつながっていると感じた。一方で、数値目標の達成や取組の成果を社会的な価値へとさらに発展させていく余地もあるように思う。全体として、教育・研究・社会とのつながりを意識した大学づくりを着実に進めようとする姿勢が感じられた。

○第4の2「運営経費の見直し」（大項目⑧、小項目⑰）

「教育研究の質の向上を図りつつ財務内容を改善するため…事務改善や効率的な施設運営等により経費の削減に取り組む。」とあるが、実際の取り組み内容は大きな改善になっているものがあるとはいえない。

財務の改善において、ウエイトの大きいものは人件費であるが、2022（R4）年度と比較して2025（R7）年度の教員人件費は8.2%のアップ、職員人件費は34.8%のアップと、教員の給与のアップについて充分といえるのか、またそれが教育の質の向上にどう影響しているかは不明だが、教員の人事評価制度と給与の反映について明らかにされるものが必要と考える。

○第6の1「施設及び設備の適切な維持管理等」（大項目⑩、小項目⑱）

学生の確保及び教職員の定着のためには施設の改修や修繕は必要である。特に海外からの留学生の国際交流を進めるにあたってトイレの洋式化は必須だと考える。「保全計画」以前に別途予算を求めてでも実施すべきではないか。

○第6の2「安全で良好な教育研究環境の確保」（大項目⑩、小項目⑱）

ハラスメント防止については、学校の相談窓口に加え、学外第三者による相談窓口（ヘルプライン）を設置する必要があるのではないか。

○教育、学生の確保と支援、研究、地域・社会貢献、平和、国際化のいずれの項目においても、着実に目標を達成するための措置が十分取られており、高く評価できる。とりわけ、科学研究費の申請率が順調に伸びていること、査読付き論文点数が増えていることなど、研究活動は確実に活性化されており、小項目として大学側の評価を超えてSとした。

一方で、その他業務運営全般については、いくつかの問題が発生したこと、目標達成が厳しいことがやや問題であると考え、大学側評価より下げて、C評価とした。特に、国籍及び民族に関する不適切発言が発生したことは、昨今の排外主義的風潮に鑑み、事態を深刻にとらえ、学生に影響がないように対応する必要がある。また女性雇用比率の低さも改善の必要がある。